

古 代

大化の改新によってその基礎が固められた律令体制は、大宝律令の制定により更に進展し、平城京が造営され、地方制度、軍制などが整備された。

甲斐国には、都留、山梨、八代、巨摩の四郡が設置され、国府が今の御坂町国衙付近に置かれた。また、国府付近には、国分寺、国分尼寺が設けられ、甲斐国の政治の中心地域として整備された。

郡内地域は、四郡の内の都留郡に所属し、この都留郡下には相模、古郡、福地、多良、加美、征茂、都留の七郷が置かれた。

これらの内で、現在の都留市域には、上、下谷村を中心とする地域に多良郷が、十日市場から上に加美郷が、それぞれ設置されていたと推定されている。

弥生時代以降、過疎地となった当地域の開発が進展するのは奈良時代からで遺跡数も増加する。この時代の遺跡としては、小形山中谷遺跡、同堀ノ内原遺跡、厚原牛石遺跡などが調査されている。

平安時代に入ると、遺跡数はさらに増加し、市内一円に開発が進展したことが窺える。この時代の代表的な遺跡としては、小形山堀ノ内原遺跡、厚原牛石遺跡、上谷三ノ側遺跡などがあげられる。

古 代

西暦	年 号	事 項	市内の遺跡
761	天平宝字5	都留郡散仕矢作部宮麻呂の名が見える。	中谷遺跡
771	宝 亀 2	武藏国を東山道より東海道に移す。	牛石遺跡
781	天 応 1	駿河国司、富士山の噴火を報告する。	堀ノ内遺跡
797	延 曆 16	使者を遣わし甲斐相模両国の国境争いを裁定する。	
800	延 曆 21	富士山の噴火鎮静のため占う。 足柄路を廃し、箱根路を開く。	尾咲原遺跡
802	延 曆 22	足柄路を復活する。	
864	貞 観 6	駿河国司、富士山の噴火を報告する。 甲斐国司、富士山の噴火を報告する。 富士山の噴火に関して、甲斐国司に下知する。	
872	貞 観 14	「甲斐国都留郡大領外正六位上矢作部宅雄。少領外從八位矢作部每世。賜姓矢作部連」	三ノ側遺跡
937	承 平 7	甲斐国富士山の噴火を報告する。 『和名抄』に都留郡内の郷名の記載あり 「加美、征茂、都留、相模、多良、古郷、福地」 駅路の制定、馬駅を置く。「甲斐国駅馬水市、河口、加吉各五疋」	
975	天 延 1	甲斐などに調布、絹などを献上するよう命ずる。甲斐は絹80疋。	
1083	永 保 3	富士山噴火する。	
1086	応 徳 3	富士山噴火する。	



奈良時代の住居跡（中谷遺跡）

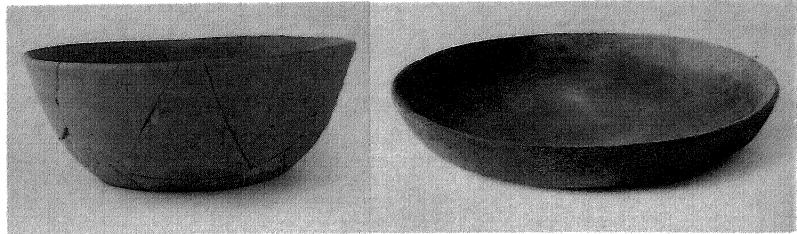
住居跡カマド

住居跡の北壁に設けられたこのカマドは石を芯材として粘土を塗り固めて作られていた。ここで、土師式土器のかめ形土器や甌などによって、煮炊きをおこなった。



都の貴族や豪族たちの屋敷と異なり、庶民の住居はあい変わらず竪穴式住居で、壁際に設けられたカマドで煮炊きがおこなわれた。

日常の什器としては、弥生式土器の流れを受け継ぐ素焼きの土器である土師式土器と、朝鮮半島より古墳時代中頃伝えられた青灰色で硬質の須恵器が使用された。



奈良時代の土器（牛石遺跡）

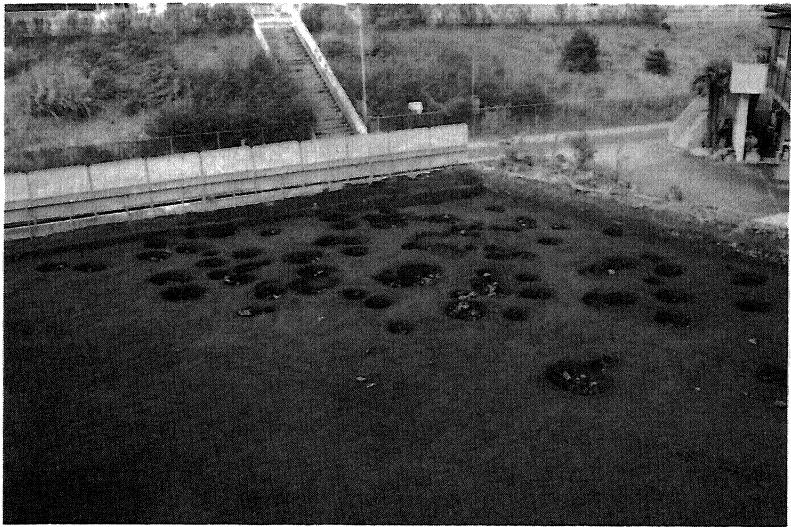
日常の生活什器としては、土師式土器と須恵器が用いられていた。これらの内、須恵器は他国の窯で焼かれた品で、はるばる運ばれてきたものである。

写真の須恵器は、8世紀初頭に作られたもので、底に高台が付けられ、現在の茶わんの祖型ともいえる。

都や国府から遠い当地域では、須恵器より土師式土器が多く用いられた。この土師式土器も甲府盆地などからもたらされたものがほとんどであったが、この時代、相模地方の壺形土器や静岡県の駿東地方のかめ形土器などが認められ相模地方や駿東地方との交流が窺える。しかし、これも平安時代になると当地域で使われる土師式土器は甲府盆地からもたらされた。



平安時代の住居跡（三ノ側遺跡）

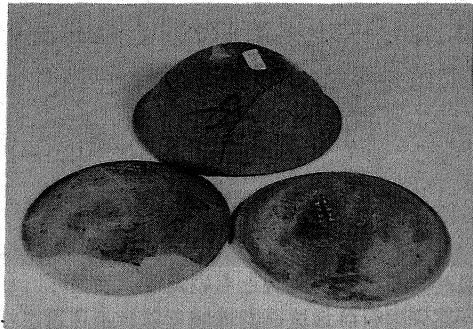


平安時代の建物跡（鷹の巣遺跡）

住居址出土の土師式土器

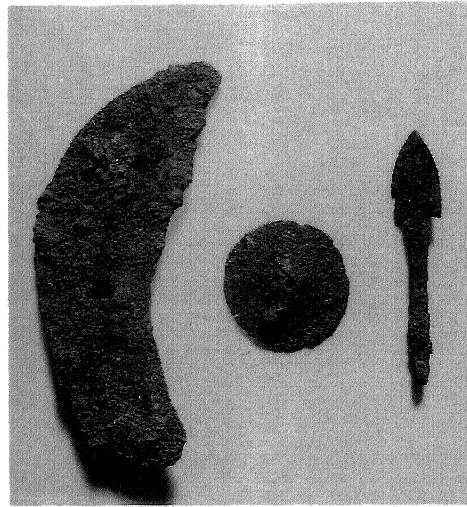
現在の岡島ファミリコ都留タウンの下から発見されたもので住居は小型化している。

出土した土師式土器には「長」という墨書が見られる。



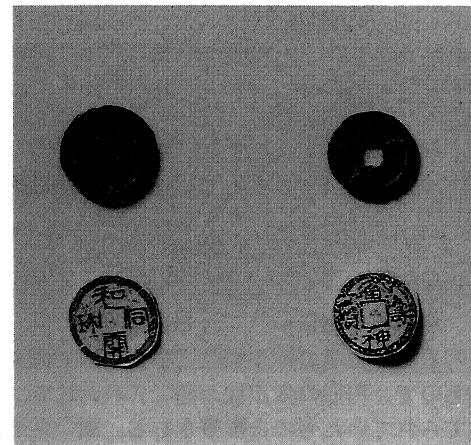
庶民の住居は竪穴式のものであったが、官衙施設やそれに伴う倉庫などは、高床式の建物が造られていた。

写真は中央道の四車線化工事に伴って調査された鷹の巣遺跡で発見されたもので、円形の穴が柱が建てられた跡で、ここには2間×3間の倉庫が建てられていたものと推察される。鷹の巣遺跡ではかなり多数の倉庫などの高床式の建物跡が発見され、この周辺が物資の集積地であったことを物語っている。



鉄製品（三ノ側遺跡）

三ノ側遺跡からは、鉄製の鎌、刀子、紡錘車、鉄鎌などが出土した。



和銅開宝・富寿神宝
(三ノ側遺跡)

奈良時代から平安時代にかけて国内で鋳造された12種の銭貨（皇朝十二銭）の内で、最古のもの（和銅開宝）と5番目（富寿神宝）が発見された。